

第2号

広報委員長 尾島健太郎
 広報委員 小林均一 高橋政次
 吉田健二 中條英幸 元田和行
 花村一三 岡田義宏 小山洋史
 平松幸明 渡辺 昇

小布施
 まちづくりボイス
 E-mail・kizai@town.obuse.nagano.jp HP・http://www.town.obuse.nagano.jp

発行
 小布施まちづくり委員会
 会長 小山洋史
 事務局 小布施町役場企画グループ
 TEL.026(247)3111
 編集
 小布施まちづくり委員会
 広報委員会
 2008年(平成20年)12月18日 創刊
 2009年(平成21年)4月20日 第2号
 ©小布施まちづくり委員会

町への「提言」続々と生まれる。第1部会(環境を考える部会) 第5部会(ハイウェイミュージアムの有効活用を考える部会)

よく地域ブランドという言葉
 葉を聞きます。小布施ブラン
 ドを大切にしようとも……。
 では「地域ブランド」って一
 体何でしょう。「小布施ブラン
 ド」って……？その疑問に
 明確に答えていただいたのが
 次の文です。

（1）地域ブランドとは何か
 私なりに、地域ブランドとは、
 画家が描いた「絵」のようなも
 のだと思います。例えば、ゴッ
 ホの絵とか、シャガールの絵と
 かのように皆ふつう「○○の絵」
 と言いますよね。この「○○の」
 がブランドだと思うのです。
 つまり、例えばゴッホの……。
 というだけで、どんな絵でも何
 億という価値が付いてくるわけ
 ですが、その付加価値のことを
 経済学ではブランドと言ってい
 るようです。

さて、ではみなさんにお尋ね
 しますが、ゴッホの絵が高いの
 は、その絵がそれだけ美しいか
 らでしょ
 うか？
 あるい
 はもっと
 分かります
 例で言うと、ネクタイやバ
 ッグのブランド、バーバリーと
 かシャネルとか思い浮かぶと思
 いますが、みなさんは、例えば
 シヤネルのバッグが高いのは、
 そのバッグがとても高価な素材
 で、人件費の高い職人さんの手
 でつくられているからだと思っ
 ていませんか？だとしたら、そ
 れはブランドではありません。
 ブランドというのは、そうい
 った実質的な価値とは別に名前
 そのものが持っている価値なの
 です。さきほどのゴッホの絵で
 いうと、絵そのものの実質的な
 価値とは別に、彼の生きざまを
 通して人々が思い描いている「ゴ

現実的目標と理想的目標

小布施町ごみ減量化推進事業
 実施計画「アクションG30」
 というものがあります。それは、
 可燃ゴミを30%減量し、資源
 物を30%増量しようとい
 う数値目標をもつて、
 生ゴミの水切りの徹底。
 古紙類の分別の徹底。
 白色発泡トレイの回収。
 あるいはプラスチック製容
 器包装の分別回収。
 を行うというものです。これは
 まさに有能な職員のみなさんが、
 過去・現在のデータ分析からは
 じき出した現実的に達成可能な
 数値目標といえるでしょう。
 それに対して、小布施まちづ
 くり委員会の環境を考える部会
 では、「ゼロ予算で生ゴミゼロ
 に！」という数値目標をもつて
 取り組んでいます。

現在可燃ゴミの4割は生ゴミ
 といわれています。単純にすべ
 ての家庭で生ゴミの排出をしな
 いということになれば、年間可
 燃物の処理に3300万円かか
 ることができます。そしてその浮
 いた1320万円を福祉・教育
 にまわせることになります。こ
 れは「絵に描いた餅」でしょうか。
 世界的不況の時代。これから
 の時代に必要なのはなんでもし
 ようか？それはまさに「より美



まちづくり委員会

会長 小山洋史



▲木製パネルで木枠を制作する作業



役場西側駐車場に設置した
木製パレットで制作した木枠

環境を考える部会

ゴミの減量化は、解決を急が
 なければならぬ地球規模の課
 題です。小布施町でも例外では
 ありません。環境を考える部会
 では小布施町を「環境先進地」
 にし、地球環境を守るために、
 可燃ゴミの総重量の四割を占め
 る生ゴミを「全量肥料化、ゼロ
 予算実現」することを目標に実
 験や研究、論議を重ねてきまし
 た。

そして今回、その一歩として
 4月10日に町長に提言しました。
 (提言書は別紙に記載)

小布施は、江戸時代からの「栗
 菓子」の産地であると同時に、
 近年のまちづくりによって風景
 をつくりだしてきたところでも
 あります。

(以下、次号に掲載)

◀小布施の
 「産地ブランド」
 の代表格である栗



復活した「小布施丸なす」
 の定植風景。「小布施丸なす」は
 新しい産地ブランドとして…

編集後記

第2号は、少々遅れての発行となり
 ましたがこの期間に二つの部会より町
 への提言がなされ、4月10日に町長に
 提言書が渡されました。これから町は
 活気に溢れた季節を迎え、皆さんも大
 変充実した日々を迎えることと思いま
 すが、まちづくり委員会もだんだんと
 エンジンが全開になり、いろいろな活動
 に入っていきます。皆さんのご協力を期
 待しています。

世の中、不況感は一段と厳しさが増
 し、大変な状況になつていますが、こん
 な時こそ町のあり方が問われてくるこ
 とも思います。この状況をいかに乗り
 越え、何ができるのかを考えることが
 大事になるのではないのでしょうか。ただ
 何もしないでやり過ごすのか、はたまた
 打つて出るのか、技量が問われてきます。
 あなたはどーする？

ハイウェイミュージアムの有効活用を考える部会

私たち第5部会では、昨年の
 7月から約9ヶ月間にわたり二
 回に及ぶ検討会を重ね、千曲川
 ハイウェイミュージアムをもっと活
 性化する方法を議論してきま
 した。

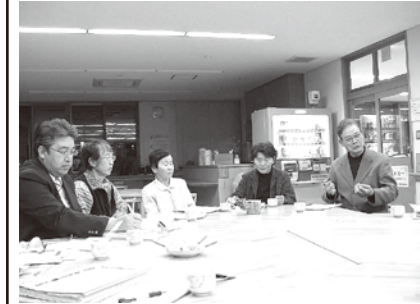
この度、その第一ステップとして、ハ
 イウェイミュージアムで展開可能
 な運営方法を仮のテーマに基づ
 いて実証するための企画案を、提
 言書としてまとめることができ
 ました。そして、4月10日、この提
 言書を市町村長に提出し、受諾
 されました。

早速、町・町教育委員会のみな
 さんと協力して広報などの準備
 にとりかかります。ぜひ、皆様
 の参加をお待ちしています。また、
 絵手紙に興味のある人もあまり……、
 という人も、これを機会にぜひ絵
 手紙を始めてみませんか？ 初
 歩から親切丁寧にご指導いたし
 ます。(提言書は別紙に記載)



当部会では「高齢者などの足の確保」に向けたサービス提供の提言を目標に会議を重ねてきました。話しの発端は「町内で周遊している巡回バス(おぶせ浪漫号)の福祉的な活用はできないか?」との意見からでした。巡回バスの活用は別としても、この意見の中には「高齢者の足に関する現状を改善する必要がある」という見解が、巡回バスは導入された目的が、町内の観光客を対象としたものであり、高齢者等の弱者が利用しやすくはありません。また、目的に合わせ路線を変更しても、バスを利用するためには停留所まで行かなければ利用できません。他にも現在運行しているバスの耐用年数や運行台数、運行時間、経費・・・どれをとっても「利用できない」と判断しました。他の方法として「デマンドバス」を運行している自治体があり、その利用価値や運用についてテレビ報道や資料により把握をしました。デマンドバスは「必要な時、必要な人に、低価格で、ドアtoドア」のサービスを提供しており、利用者からすると便利なサービスであるといえます。しかし、その運営には多大な経費が必要で、バスの購入やその運営などに年間で何千万円もの経費がかかっています。小布施町で導入した場合、多大な経費をかけた事業となってしまう。

福祉を考える部会



い、とてもまちづくり委員会からの提言で処理できるような内容ではありません。そこで部会では町内で営業をしているタクシース会社さんに参加いただき、町内住民の利用状況や近隣市町村でのタクシース運行に関する福祉サービスの導入状況をお話いただきました。近隣市町村ではタクシース利用の一部助成を行っており、買い物や通院などの足としてタクシース利用がしやすい環境や条件を住民に提供していました。小布施町としてもタクシース利用料金助成のサービス提供であれば、デマンドバスの様に「必要な時、必要な人に、低価格で、ドアtoドア」のサービスが無駄なコストをかけることなく安全に提供することができると判断しました。今後、実際にデマンドバスやタクシース利用助成を行っている市町村の状況をよく調査し、より小布施町にあったサービス提供方法を提言したいと思っています。(文責 花村一三)

あなたが所属するグループ・団体等の活動写真やデータをお寄せください

まちづくり委員会では、町内で活動するグループ・団体の活動内容を町民にお知らせするための情報誌を制作するに当たり、データの集約に励んできました。現在52団体ほどがあつまり制作作業にとりかかっているところです。それに伴いそのグループ・団体の活動内容を掲載する写真やデータを皆様に提供してもらい、より中身の濃いものにしたいと思っています。そして今後、新図書館にできる「交流センター」の機能を利用し、ネットにアップし、いつでもほしい情報が見られるようにしたり、連携できるようなグループ・団体の橋渡しも考えています。お手数とは存じますが、皆様が活動するグループ・団体の写真またはデータがありましたら、3月10日頃までに役場事務局までお持ちいただくか、ご郵送していただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。また、今でも掲載ご希望のグループ・団体を募集していますのでご希望のグループ・団体の皆さんはどしどしお寄せください。お待ちしております。

小布施史料調査会

活動目的 小布施町に伝わる古文書を中心とした歴史資料の整理・記録・保存

活動内容 7月10日開催の古文書の会を主題に、取り、デジタルカメラによる記録化

進行中の活動 H28古文書の記録整理、数大伴社会文庫の再調査

今後の活動 デジタルデータ化した古文書データをネット上に立ち上げ、利用できるようにする

代表者 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

連絡先 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

活動費 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動時間 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動場所 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

一茶を学ぶ友の会

活動目的 一茶一湯を通して小布施の歴史と文化を学び、相互の交流を図る

活動内容 一茶一湯の会、交流会、交流会、交流会、交流会

進行中の活動 一茶一湯の会、交流会、交流会、交流会、交流会

今後の活動 一茶一湯の会、交流会、交流会、交流会、交流会

代表者 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

連絡先 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

活動費 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動時間 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動場所 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

ええがげんぞうりの会

活動目的 家にある古布や着物を使い、お互いに交流の中で、よりよい作品になるように協力し合う

活動内容 古布や着物の活用、交流会、交流会、交流会、交流会

進行中の活動 古布や着物の活用、交流会、交流会、交流会、交流会

今後の活動 古布や着物の活用、交流会、交流会、交流会、交流会

代表者 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

連絡先 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

活動費 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動時間 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動場所 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

達瀬吟社

活動目的 俳句の創作と発表、交流を図る

活動内容 俳句の創作、発表、交流会、交流会、交流会

進行中の活動 俳句の創作、発表、交流会、交流会、交流会

今後の活動 俳句の創作、発表、交流会、交流会、交流会

代表者 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

連絡先 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

活動費 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動時間 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動場所 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

小布施景観研究会

活動目的 小布施の景観の調査と改善、交流を図る

活動内容 景観の調査、改善、交流会、交流会、交流会

進行中の活動 景観の調査、改善、交流会、交流会、交流会

今後の活動 景観の調査、改善、交流会、交流会、交流会

代表者 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

連絡先 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

活動費 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動時間 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

活動場所 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

A3サイズ 2つ折り 1色刷 (写真やデータをお寄せいただいたグループ・団体)

個人情報保護法に基づき、代表人・連絡先等は伏せてありますが、実際に発行するときはそれぞれの了解を頂き掲載いたします。

安全を考える部会

「小千谷市の震度七の地震災害地視察」報告を兼ねて



皆さん、今、震度七の地震に襲われたらどのような行動をとりますか。昨年当部会が提案した、青パトに拡声器を装備し「イカのおすし」という防犯抑止の曲を流す案件が町のスピーディなご理解と即断を得て、提言後直ちに全面的に実施されました。そこで、第二の課題を検討し、災害時の自分と近隣の備えはどうあるべきか、「災害時の初期動作」に意見交換を移しました。その課題を検討する過程で、自分と周囲の安全・安心を得ることとは何をなすべきか、まずは被災体験を学ぶために、平成十六年十月二十三日に震度七の大地震に襲われた新潟県小千谷市の「NPO法人 防災サポートおぢや」と三月七日に視察・交流しました。その概要を報告

参加した人は小布施まちづくり委員会からは九名、小布施町社会福祉協議会から二名、町役場から三名の計十四名です。「NPO法人 防災サポートおぢや」は中越大地震の体験から得られた防災共通データを全国に発信するため、防災や減災に関する事業を行っています。その事業の一つ「語り部の会」から、今回三名の方が対応していただきました。防災・減災の資料はホームページなどで詳細な情報を得ることができます。事前に当部会でも検討しましたが、今回「語り部の会」の方たちが用意してくださった講演テキストや教訓話は、真に迫る深刻な話題ばかりでした。お話には、●瓦の重い家や見晴らしのよい場所ほど被害が大きい ●インフラ回復速度は電気・ガスの順であった ●電気やガスが元から止まるので火災はほとんどない ●余震による被害も予測以上ある ●建物の外は早く回復するが中は遅い ●災害救援物資が比較的早く集



尿の集積埋め立て など、想像しがたいお話にため息をつく声に参加者から聞こえました。また、「災害に生かせ地域の総力」と題した自主防災会の代表者の講演テキストには、災害後の反省から生まれた日ごろからの自主防災組織活動の重要性や業者との災害協定について紹介がありました。意見交換では、●災害時の行



政治対応の限界 ●エコノミー症候群や心のケア ●応急危険度判定作業被害調査 ●被災証明や罹災証明と生活再建 などが語られ、被災にあつてからの話ですが、事前に研究すべきものと思いました。最後に、災害後反省したことは何かとの問いに、まず、自分の生命の安全第一、次に家族の心配の順に移るべき教訓の数々を聞かされました。また、すぐ役立つ高齢・障がい者の避難誘導やボランティア受け入れ等のマニュアルおよび常備していない個人情報が発災復旧の重要な妨げとなった点など多々ありました。さらに重ねて、日ごろから少なくとも隣近所との交流を深めることは特に重要だとのことでした。被災三年後に設立された小千谷市防災連絡協議会には自主防災組織七十一団体が加入し、復興や防災訓練、防災活動などの事業に対し、現在も市民全員が支援や災害協力を行っているそうです。



「NPO法人 防災サポートおぢや」の皆さん

町からの情報が町民一人ひとりに、なかなか伝わらない。住民個々からの要望や告知したいことを伝えるべきがない。自分たちグループの活動を広く知らせ、その活動に参加して欲しい。新しく運動グループを立ち上げたけれど、指導者を探したい。万が一の災害時に効率よく確実に安否情報を伝える方法はどうしたら？

交流を考える部会

等々の問題意識から交流を考える部会にて考えたことは、「人や情報のネットワークづくり」です。では「何と何をどう結びつけるのか。」ですが、その前に何がどれだけあるのか?何をしているグループなのか?把握する必要があります。調査してみたところ、200を超えるグループがあることがわかりました。そこでまた、具体的な活動内容を知るべく各グループにアンケートを送付させていただきました。

現在それにご回答をいただきましたグループを皮切りに、各グループ紹介紙を作成すべく作業に入っております。今は基礎データ作成のための地道な作業ですが、今後これをどう利用していくかはまた大いに検討しなければなりません。まだ未提出のグループのみならず、主旨をご理解いただき是非ともご協力いただきたいと思います。(文責 小山洋史)

提言1 環境を考える部会

可燃ゴミを減らすために、生ゴミの堆肥化を!

「パレットを使った木枠による生ゴミの堆肥化」のワークショップの開催を町長に提言

ゴミの減量化は、解決を急がなければならない地球規模の課題です。小布施町でも例外ではありません。環境を考える部会では小布施町を「環境先進地」にし、地球環境を守るために、可燃ゴミの総重量の四割を占める生ゴミを「全量肥料化、ゼロ予算実現」することを目標に実験や研究、論議を重ねてきました。

そして今回、その一步として下記の内容を4月10日に町長に提言しました。

1 提言内容

「パレットを使った木枠による生ゴミの堆肥化」のワークショップを開催することを通して、生ゴミの減量と堆肥化を進めます。

2 実施の方法

- (1) ワークショップの開催を企画します。講師との日程調整を行います。
- (2) 住民への広報とともに、店舗・企業・コミュニティ・自治会の担当者にも参加を呼びかけます。花作り、オープンガーデン、環境、農業など、町内のグループや団体、施設との交流と連携を進めます。
- (3) 参加者の希望数に応じて、材料を調達します。
- (4) 講師の講話のあと、環境を考える部会員がサポートし、参加者が木枠を制作します。
- (5) 会場にて、生ゴミを減らす方法や、各家庭・職場・地域の環境に合わせた減量方法を、資料や製品の展示によって紹介します。
- (6) 初回の成果と反省点を踏まえて、2回目以降の開催を検討します。また、要望に応じて、町内の各所に出向く出張ワークショップを行うことも提言いたします。

生ゴミは、工夫すれば減量することができます。また生ゴミは、身近な場所で小さな「ずく」を積み重ねることができれば、堆肥にもなります。その堆肥を花作りや園芸に活用すれば、家庭や集落など小さな範囲の地域循環を実現し、継続させることができます。

世界の広い中の一つの地域に生きていることを心得

ながら住民意識が高く、まとまりがある小布施町に暮らしている私たちなら必ずできます。

部会ではこの提言を通して、各家庭や職場・地域のゴミや環境への関心と意識を高める息の長い活動を、町行政とともに推進していきたいと考えています。



提言 2

千曲川ハイウェイミュージアムの有効活用を考える部会

ハイウェイミュージアムをもっと活用するには？

絵手紙による新たなテーマで実証実験を町長に提言

私たち第5部会では、昨年の7月から約9ヶ月間にわたり16回に及ぶ検討会を重ね、千曲川ハイウェイミュージアムをもっと活性化する方法を議論してきました。

この度、その第1ステップとして、ハイウェイミュージアムで展開可能な運営方法を仮のテーマに基づいて実証するための企画案を、提言書としてまとめることができました。以下にその内容をご紹介します。

1 仮テーマ

「絵手紙咲いた 楽町小布施」(仮題)

2 概 要

「絵手紙」を仮のテーマとして関連企画を実験的に展開し、その効果や経済性などを検証する。同時に、最終的な活用方法の提言に向けて、小布施らしい文化を育み、交流を生むようなテーマと効果的な運営方法や探る。

- 作品公募、展示、コンテスト
- 描き方教室、写生大会
- 絵道具、小布施の物産などの販売、喫茶

3 時 期

平成21年10月23日(金)～11月24日(火)(予定)

4月10日、この提言書を市村町長に提出し、受諾されました。

早速、町・町教育委員会のみなさんと協力して広報などの準備にとりかかります。ぜひ、皆様のご参加をお

待ちしています。また、絵手紙に興味のある人も、あまり…、という人も、これを機会にぜひ絵手紙を始めてみませんか？ 初歩から親切丁寧にご指導いたします。

